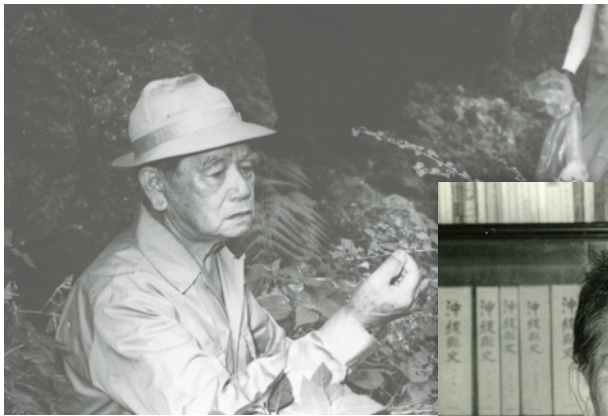


平成 19 年度 企画展

多和田真淳先生 生誕百年記念パネル展



沖縄考古学のパイオニア



日時：2007 年 5 月 22 日（火）～ 6 月 10 日（日）

場所：沖縄県立埋蔵文化財センター エントランスホール



沖縄県立埋蔵文化財センター

【共催】 沖縄考古学会

目 次

あいさつ	・・・・・・・・・・・・・・	1
多和田真淳先生と考古学	・・・・・・・・・・・・・・	2
多和田真淳先生略年譜	・・・・・・・・・・・・・・	3
写 真	・・・・・・・・・・・・・・	4
多和田真淳先生著作目録	・・・・・・・・・・・・・・	5



平田義浩氏と植物採集 昭和 53 年頃

あいさつ

多和田眞淳先生生誕百年記念パネル展を開催するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

多和田眞淳先生は1907年に那覇市で生を受け、考古学を始めとした多くの学術分野に関心を持ち沖縄学の発展に大きく影響を及ぼされた人物です。

多和田先生は考古学的調査が散発的に行われていた戦前戦後の沖縄県内外において、大戦前から考古学に関心を持ち在地研究者として各地の遺跡探訪を精力的に行ってこられました。その一方で県外の考古学調査団の調査などにも積極的にに関わり、これら調査結果から1956年「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」、1961年には「琉球列島における遺跡の土器、須恵器、磁器、瓦の時代区分」を発表されました。特に沖縄で初めて体系化された「琉球貝塚の編年表」は、今なお沖縄考古学に係る数多くの研究者にとって道標となり多大な影響を与えています。

さらに化石人骨の調査研究は、多和田先生による伊江島カダ原洞穴人骨（1962年）や桃原洞穴人骨の発掘（1966年）が契機となり、その後の更新世化石人骨の発見へと続きました。

多和田先生は一人の研究者としての活動のみならず、1956年以降は琉球政府文化財保護委員会主事として県内の貝塚等の遺跡をはじめとする多くの文化財の調査や保護・保存に尽力され、これらの文化財は現在においても県内外の耳目を集め続けています。

以上のような溢れる情熱と学識の高さから沖縄の考古学や植物学をはじめ、他分野へ影響を与えた多和田眞淳先生の地道な研究や活動の一端を多くの県民の皆様にお伝えするとともに、今後の沖縄考古学の更なる発展を期待します。

ご子息の多和田眞周氏の写真提供の協力を得て、沖縄考古学会共催のもとに多和田眞淳先生生誕百年記念パネル展を開催いたします。

平成19年5月22日

主催：沖縄県立埋蔵文化財センター

多和田真淳先生と沖縄考古学

沖縄考古学のパイオニアで多くの業績を残され、植物学者としても著名な多和田真淳先生が、今年1月に生誕百年を迎えました。沖縄考古学会ではその業績を称えるため『南島考古 多和田真淳先生生誕百年記念特集号』を刊行するとともに、沖縄県立埋蔵文化財センターとの共催で、シンポジウムや写真パネル展などの記念事業を開催することになりました。

多和田先生は、植物学をはじめ、考古学や民俗学、歴史学など幅広い分野にまたがって、造詣が深く広範かつ奥の深い学殖の上に立って、考古学研究を進められました。

多和田先生と考古学との出会いは、1930年（昭和5）に教員として赴任されていた具志川市の天願小学校図書館で大山柏著『伊波貝塚発掘報告書』に接し、学校の運動場で天願貝塚の包含層から伊波貝塚と同様の有文土器片を発見、感動し、以後考古学に傾倒するようになります。

植物採集と併せて、遺跡の発見にも情熱を注ぎ、奄美諸島から八重山諸島までをくまなく踏査し多くの遺跡を発見し、その成果として1956年「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」を発表し考古学の基礎である編年が提示され、沖縄考古学に大きく貢献されました。

また、先生は1959年から1970年まで琉球政府文化財保護委員会で専門官として、文化財保護行政に携わり、地荒原貝塚、勝連城跡、宇佐浜遺跡などの発掘調査を実施し考古学の発展に尽くされました。

文化財保護行政の実績としては、重要文化財10件、古文書3件、史跡17件、名勝2件、天然記念物の動物8件、植物17件の指定に尽力されました。これは多和田先生が有形文化財担当の専門官であったことと関わりがあります。その多くが本土復帰後に国指定されました。

このような功績と研究業績が認められて、多和田先生は沖縄県文化功労賞と沖縄タイムス賞を受賞されました。

2007年5月吉日

沖縄考古学会

会長 知念 勇

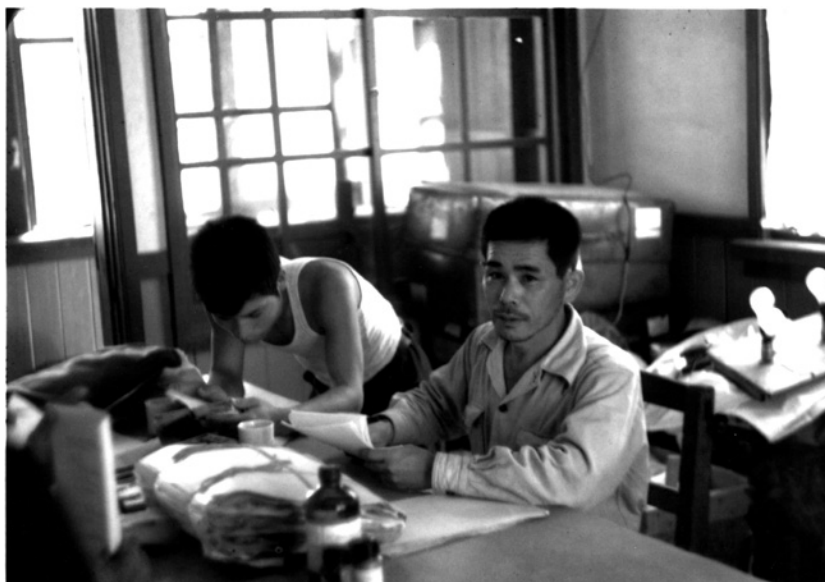
多和田真淳先生 略年譜

- 1907 年 1 月 7 日 多和田真徳・母ウトの三男として
那覇市首里崎山町で生れる
- 1925 年 3 月 沖縄県立第一中学校卒業
- 1926 年 3 月 沖縄県師範学校本科第二部卒業
- 1926 年 4 月 国頭郡安田小学校訓導、
その後 美里・天願・美東
・西表小学校の訓導歴任
- 1939 年 4 月 八重山郡西表小学校教頭
- 1941 年 4 月 八重山郡西表国民学校教頭
- 1942 年 3 月 文部省資源科学研究所嘱託（植物採集方）
- 1943 年 3 月 首里第一国民学校訓導
- 1943 年 3 月 県立第一中学校教授嘱託（植物）
- 1945 年 10 月 知念高等学校教官
- 1946 年 10 月 首里高等学校教官
- 1948 年 12 月 沖縄民政府経済部農務課技官
- 1950 年 3 月 沖縄民政府行政法務行政課事務官
- 1950 年 11 月 沖縄民政府林野庁林業技術員養成所技官
- 1953 年 4 月 琉球政府林業試験場長
- 1956 年 9 月 文化財専門審議員
- 1959 年 10 月 琉球政府文化財保護委員会主事
- 1968 年 4 月 琉球政府文化財保護委員会専門官
- 1970 年 10 月 琉球政府文化財保護委員会勸奨退職
- 1970 年 12 月 琉球政府職員賞受賞
- 1972 年 7 月 沖縄タイムス文化賞受賞
- 1972 年 12 月 沖縄県緑化功労賞受賞
- 1973 年 12 月 長年収集された考古資料を沖縄県立博物館に寄託
- 1976 年 3 月～4 月 特別展「多和田真淳氏所蔵考古資料」 主催 沖縄県立博物館
- 1978 年 3 月 沖縄県文化功労賞受賞
- 1980 年 1 月 古稀記念多和田真淳選集刊行会編『古稀記念 多和田真淳選集』を刊行
那覇市史編集委員会委員
沖縄県森林審議会委員
沖縄県緑化推進委員会委員他を歴任
- 1990 年 12 月 21 日 没する（享年 83 歳）



自宅書斎にて 昭和 55 年

（略年譜を作成するにあたって古稀記念多和田真淳選集刊行会編『古稀記念 多和田真淳選集』
1980 年を参考にした。）



文部省資源科学研究所嘱託の頃 昭和 17 年頃 八重山



文部省資源科学研究所嘱託の頃 昭和 17 年頃 八重山



琉球政府文化財保護委員会の刀剣登録審査
中央奥：多和田先生、右手前：新城徳祐氏 昭和 45 年

多和田真淳先生著作目録

1931（昭和6）年

「特種植物群落地としての越来ウガンの価値（之を天然記念物に指定されん事を望む）」『沖縄教育』 沖縄薬用植物薬効

1932（昭和7）年

「久米島採集記」『沖縄朝日新聞』 9月15日～9月30日

1933（昭和8）年

美東植物目録

1934（昭和9）年

「珍しい八重山の植物」『沖縄日報』 6月～

1935（昭和10）年

「樟の語源と植物名考」『琉球新報』 10月～
「伊江島植物目録」（共著）『沖縄博物学会会報』 第1巻第1号

1936（昭和11）年

「植物の新種発見」『沖縄朝日新聞』 4月10日
「西表島植物探検」『沖縄朝日新聞』 5月～

1938（昭和13）年

琉球植物の研究

1941（昭和16）年

「琉球植物雑感①」『文化沖縄』 4月号
「琉球植物雑感②」『文化沖縄』 5月号
「琉球植物雑感③」『文化沖縄』 11月号
「琉球植物雑感④」『文化沖縄』 12月号

1943（昭和18）年

「琉球植物雑感⑤」『文化沖縄』 4月号
「琉球植物雑感⑥」『文化沖縄』 5月号
「食へる薬草」『文化沖縄』 10月号

1951（昭和26）年

沖縄薬用植物薬効

1952（昭和27）年

Flora of Okinawa（沖縄植物誌）（共著）
発刊の辞「高嶺英言 八重山群島植物誌」『琉球林業試験場集報』 第1輯
発刊の辞「園原咲也 琉球有用樹木誌」『琉球林業試験場集報』 第2輯
「尖閣列島採集記」『琉球新報』 6月29日～7月15日（17回連載）
「林政八書の植物名解」『琉球新報』 7月18日～7月21日（4回連載）

1953（昭和28）年

「沖縄本島中南部（島尻真地・ジャーガル・隆起珊瑚礁）地帯に適する有用樹種の挿木試験について」（共著）『琉球政府林業試験場研究報告』 第1号

1954（昭和29）年

「尖閣列島の植物相について」『琉球大学農学部学術報告』 第1号
「八重山群島波照間島の植物」『琉球政府林業試験場研究報告』 第2号
「奄美大島の貝塚分布」『琉球新報』 1月8日～14日
「沖縄列島の貝塚分布」『琉球新報』 3月10日～3月14日
「消化された血肉－宮城真治著「古代沖縄の姿」と語義の二・三について」『沖縄タイムス』 10月10日～10月14日

1955（昭和30）年

「祖先の足跡－琉球の貝塚について」『沖縄タイムス』

2月26日～2月28日

「古い植物」『沖縄タイムス』 7月20日
※「喜舎場さんと私（東苑随想）」『琉球新報』 1月29日～2月3日

1956（昭和31）年

※「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」『文化財要覧』 1956年版
※「考古の旅」『沖縄タイムス』 4月5日～4月15日
「かな字の石ぶみ」『沖縄タイムス』 6月26日
「草木談義」『あおば』 第2・3号
「草木談義」『琉球』 第3号

1957（昭和32）年

「草木談義」『あおば』 第4号
「草木談義（2）」『琉球』 第5号
「草木談義（3）」『琉球』 第6号
「その道を語る（薬草）－化学薬品以上の効力－植物収集のついでに貝塚調査」『沖縄新聞』 1月24日

1958（昭和33）年

「探る文字以前の歴史－弥生式土器の発見（私の研究五）」『沖縄タイムス』 4月20日
「秘伝薬の公開」『新琉球』 2月10日

1959（昭和34）年

「宜野湾村大山貝塚の調査概要」（共著）『文化財要覧』 1959年版
※「開元通宝について－野國貝塚の出土銭と金関教授の考証」『琉球新報』 4月6日
「鬱金考」『琉球新報』 7月20日～8月30日（15回連載）
「拓本のとり方」『琉球新報』 11月21日

1960（昭和35）年

※「琉球列島の貝塚分布と編年の概念補遺（一）」『文化財要覧』 1960年版
「金武鍾乳洞の学術調査」『沖縄タイムス』 7月30日
「愛の苗木その育て方」『みどり』 第1号
「鬱金考」琉石産業研究所
「インド蛇木について」『琉球新報』 10月23日
※「サンニンガーサ」『琉球新報』 12月26日・12月27日
「そてつ地獄」『日本経済新聞』 3月16日
「沖縄の文化財」（共著）『郷土の文化財』 第13巻
「波照間島の植物」『沖縄 八重山』 校倉書房

1961（昭和36）年

「読谷村赤犬子遺跡調査報告」（共著）『文化財要覧』 1961年版
※「琉球列島における遺跡の土器、須恵器、磁器、瓦の時代区分」『文化財要覧』 1961年版
「琉球の五穀と稗の方言名」『沖縄タイムス』 4月18日～4月22日
「植物サロン」『沖縄タイムス』 7月23日
「西表島入植地の植物調査を終えて」（共著）『みどり』 第9号

1962（昭和37）年

「地荒原貝塚発掘報告」（共著）『文化財要覧』 1962年版
「胡桐涙という植物－再びその本体をさぐる」『沖縄タイムス』 9月4日

1963（昭和38）年

※「私の見た久高島」『琉球新報』 2月11日
「恋路の文の解説」『琉球新報』 3月22日～3月31日
※「ウザ浜貝塚と辺戸」『琉球新報』 11月4日
※「古琉球の祭具」『沖縄タイムス』 10月3日～10月14日

日（10回連載）

1964（昭和39）年

- ※「琉球列島の起源Ⅰ・Ⅱ」『守礼の光』2・3月号
- 「琉球波照間島下田原貝塚の発掘調査」（共著）『水産大学校研究報告 人文科学篇』第9号
- 「那覇市山下町第一洞（鹿化石）発掘報告」（共著）『日本考古学協会昭和39年度大会研究発表要旨』
- ※「貝塚人の遺跡＝浜比嘉島をたずねて＝上・中・下」『沖縄タイムス』2月21日・22日・24日
- ※「糸満の語原考」『郷土の友』創刊号
- 「琉球植物見聞録」『沖縄生物学会誌』第1巻第2号
- 「奇石怪岩」『沖縄タイムス』9月17日

1965（昭和40）年

- 「勝連城跡第一次発掘調査報告書」（共著）『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会
- 「沖縄植物風土記」『琉球新報』1月19日～3月5日
- 「黒島君のアトモドレについて」『琉球新報』3月19日
- ※「首里城の古銭と首里遷都（1－4）－「舜天以前中国貿易説」に疑問」『琉球新報』10月4日～10月8日
- 「琉球植物見聞録Ⅱ」『沖縄生物学会誌』第2巻第3号
- 「琉球植物見聞録Ⅲ」『沖縄生物学会誌』第2巻第4号
- 「植物名雑感」『琉球新報』6月19日

1966（昭和41）年

- 「勝連城」『日本考古学年報』14 日本考古学協会
- 「リュウキュウマツ」『琉球新報』12月10日
- 「とまるものはとめる」『沖縄タイムス』11月25日
- 「「もどき」とは」『沖縄タイムス』7月23日
- ※「学究への動機」『沖縄タイムス』5月4日
- 「ノグチゲラ」『琉球新報』3月19日
- 「琉球植物見聞録Ⅳ」『沖縄生物学会誌』第3巻第5号

1967（昭和42）年

- ※「琉球古代の鉄の輸入」『考古学ジャーナル』14
- ※「沖縄の先史時代」『考古学ジャーナル』15
- 「生活化された自然科学を」『沖縄時報』8月30日
- 「琉球植物見聞録Ⅴ」『沖縄生物学会誌』第4巻第6号
- 「沖縄の植物」『植物と自然』第1巻第2号

1968（昭和43）年

- 「貝塚からみた古代越来」『沖縄風土記全集3 コザ市篇』沖縄風土記刊行会
- ※「沖縄の文化財保護行政」『考古学ジャーナル』17
- 「琉球古代の鉄の輸入」『鉄と琉球』金秀鉄工KK会社
- 「東恩納文庫所蔵「首里古地図」の絶対年代について」『沖縄タイムス』7月27日
- ※「首里城龍柱について」『沖縄時報』4月8日
- 「沖縄の植物」『沖縄タイムス』7月22日～11月2日
- 「琉球植物見聞録Ⅵ」『沖縄生物学会誌』第5巻第7号
- 「諸志御嶽の植物群叢」『文教時報』112

1969（昭和44）年

- 「新城徳祐著「沖縄の民謡歌詞と解説」を読んで」『琉球新報』7月5日
- 「印象に残る一冊」『琉球新報』5月10日
- ※「植物生態学者の見た「日本のふるさとー琉球」」『沖縄タイムス』6月6日
- 「薬用植物の効用」『沖縄タイムス』7月28日
- 「佐敷村富祖崎海岸のハマジンチョウ群落」『文教時報』117

1970（昭和45）年

- ※「考古学の周辺」『南島考古』創刊号
- 郷土の植物に学ぶ」『今週の日本』11月8日

- ※「沖縄・道しるべの島々ー尖閣列島の歴史・風物と資源と」『琉球新報』9月30日～10月16日
- 「カゼと赤痢の漢方薬」『沖縄タイムス』2月28日
- 「有毒植物について」『沖縄タイムス』5月17日
- 「沖縄の名勝・天然記念物」『月刊文化財』81号

1971（昭和46）年

- ※「琉球古代の鉄の輸入（その2）」『考古学ジャーナル』59
- 「繁雑な算出省ける宝典 当間論著「新旧対照暦」」『沖縄タイムス』4月17日
- ※「沖縄考古学の諸問題」『南島考古だより』第7号
- ※「自然の宝庫尖閣諸島」『アジア文化』第7巻第3号
- 「雑草記」『沖縄生物学会誌』第7巻第9号
- 「寒緋桜」『日刊琉球放送』
- ※「古都首里と古図」『那覇今昔の焦点』沖縄文教出版社
- ※「沖縄考古学の諸問題」『月刊琉球放送』

1972（昭和47）年

- ※「琉球陶器の分類学的考察」『琉球の文化』第1号
- ※「琉球陶器の分類学的考察」『考古学ジャーナル』67
- ※「遺跡発掘に憑かれて」『青い海』第2巻第7号
- 「沖縄の先史時代」『沖縄の夜明け』たかしよいち著
- 「沖縄のデイゴ」『朝日新聞』6月3日
- 「貴重な生活文化資料 宮城文著「八重山生活誌」」『沖縄タイムス』12月22日
- 「カラカラ談義」『サンデーおきなわ』11月18日
- 「煙移して壺屋守れ」『サンデーおきなわ』12月9日
- ※「沖縄の染料植物と繊維植物」『琉球の文化』第2号
- 『沖縄薬草のききめ』
- 「民間療法」『沖縄県史第22巻各論編10 民俗Ⅰ』
- 「身近にある薬草」『琉球新報』4月17日～4月21日
- 「旧藩時代「沖縄の林業史」」『沖縄県農林水産部』
- ※「沖縄の墓」『文化誌沖縄』創刊号
- 『沖縄文化史辞典（植物 労働 武芸 その他分担執筆）』東京堂出版
- 「トウワタの黄葩品」『植物研究雑誌』第47巻
- 「世礼氏のこと」『新沖縄文学』第23号

1973（昭和48）年

- 「次郎の夢」『サンデーおきなわ』3月3日
- 「クバ讃歌」『サンデーおきなわ』6月23日
- ※「沖縄の漆器素材と漆料の問題」『琉球の文化』第3号
- ※「琉球の武術」『琉球の文化』第4号
- 『文化財実態調査報告書』沖縄開発総合事務局
- 「沖縄の新帰化植物ーフウリンアサガオについて」『植物と自然』第7巻第1号

1974（昭和49）年

- 『沖縄の史跡・建造物』風土記社
- 「伊平屋列島の先史遺跡」『伊平屋列島文化誌』
- ※「首里城復元に思う」『サンデーおきなわ』3月16日
- ※「ガーナー森とナハキハギ」『サンデーおきなわ』6月8日
- 「新玉の「さご」」『サンデーおきなわ』12月28日
- 「琉球の妖怪・幽霊」を読んで」『琉球新報』10月15日
- ※「喜舎場文庫「壺瓦方例帳」」『琉球の文化』第5号
- ※「桐板（トウンビヤン）とは何かーその調査追跡報告（予報）」『沖縄文化研究』1
- 「久米島の天然記念物と史跡」『久米島県立自然公園候補地・学術調査報告』
- 「沖縄の正月行事と御馳走」『月刊 食糧』2月号
- ※「はぶいの植物学」『えとのす』創刊号
- 「沖縄の豊かな自然」『守禮の邦沖縄』所収 講談社
- 「亜熱帯の緑・花々の四季」『守禮の邦沖縄』所収 講談社

「沖縄の薬草」『守禮の邦沖縄』所収 講談社

1975 (昭和 50) 年

- ※「沖縄先史・原史時代の主食材料について」『南島考古』第4号
- 「トボロチの分類学的位置」『琉球新報』12月12日
- 「ウブルー料理」『サンデーおきなわ』7月5日
- 「ジーワイ」『サンデーおきなわ』9月13日
- 「貴重な植物群落－ダム水没地と自然関係－」『沖縄タイムス』3月18日
- 「琉球産ラン科植物目録 書評」『沖縄タイムス』10月4日
- 「今帰仁村の先史時代」『今帰仁村史』今帰仁村役場
- 『沖縄の山野の花』風土記社
- ※「跋」『新訂増補 八重山歴史』所収 図書刊行会

1976 (昭和 51) 年

- ※「考古学と私」『都市新聞』7月1日
- ※「フィンブン・イシガントー・シーサー」『サンデーおきなわ』8月7日
- 「書評 渴望された研究書－琉球植物帯 久場長文著」『沖縄タイムス』1月17日
- 「病気と薬草の効果」『沖縄タイムス』5月27日
- 「沖縄の外来植物速報」『植物と自然』第10巻第12号
- 「ゑその幸多き若太陽よー『おもろ』が讃える英祖王とその周辺ー」『青い海』第6巻第8号

1977 (昭和 52) 年

- 「精根尽くした集積「沖縄動植物研究史」」『琉球新報』4月30日
- 「「沖縄と南琉球諸島植物誌」を読む」『琉球新報』8月27日
- 「沖縄の深部見透す「沖縄結縄考」」『沖縄タイムス』3月12日
- 「識名園植生調査」『名勝識名園環境整備事業報告書』(1) 名勝識名園環境整備委員会
- 「大井先生のことども」『植物地理・分類研究(北陸の植物)』第28巻

1978 (昭和 53) 年

- ※「「石器時代の沖縄」を読む」『琉球新報』6月17日
- ※「沖縄の稲作儀礼－アラザウリ・向ザウリの一考察－」『えとのす』第9号
- 「書評「琉球植物目録」」『沖縄タイムス』3月4日
- ※「東恩納先生の思い出」『東恩納寛惇全集付報』1 第一書房
- 「薬草見あるき①」『南風』創刊号
- 「薬草見あるき②」『南風』第2号
- 「薬草見あるき③」『南風』第3号

1979 (昭和 54) 年

- 「西表島の海漂林に行く」『小原流挿花』第2号
- 「西表の思い出あれこれ」『沖縄アルマナック』第1号
- 「那覇の民俗(分担執筆)」『那覇市史』資料篇2巻7
- 「薬草見あるき④」『南風』第2巻第1号
- 「薬草見あるき⑤」『南風』第2巻第2号
- 「薬草見あるき⑥」『南風』第2巻第3号
- 「薬草見あるき⑦」『南風』第2巻第4号
- 「薬草見あるき⑧」『南風』第2巻第5号
- 「薬草見あるき⑨」『南風』第2巻第6号

1980 年 (昭和 55) 年

- 『古稀記念 多和田真淳選集』古稀記念多和田真淳選集刊行会編

1981 年 (昭和 56) 年

- 「おもろ植物」『沖縄文化』(55)
- 「前門正一著『沖縄つれぞれ草ー随筆と論説』第一集」『琉球新報』3月14日
- 「園原咲也先生の思い出」『琉球新報』7月14日

- 「比嘉春潮先生と私」『沖縄文化』第18巻第1号(通巻第56号)
- 『沖縄薬草家庭栽培と薬効』新星図書出版

1982 年 (昭和 57) 年

- 「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅰ)」(知念勇と共著)『沖縄県立博物館紀要』第8号
- 「主食の変遷ー甘藷以前」『新沖縄文学』(54)

1983 年 (昭和 58) 年

- 「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅱ)」(知念勇と共著)『沖縄県立博物館紀要』第9号

1984 年 (昭和 59) 年

- 「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅲ)」(知念勇と共著)『沖縄県立博物館紀要』第10号
- 「ソテツー岩の上で厳しい自然に耐える(首里だより①)」『科学朝日』第44号第1巻
- 「海漂林ー水辺に広がる熱帯の別天地(首里だより②)」『科学朝日』第44号第2巻
- 「夜光貝ー古代の仲介貿易を支えた通貨(首里だより③)」『科学朝日』第44号第3巻
- 「民間薬ー島民の命を救った植物(首里だより④)」『科学朝日』第44号第4巻
- 「御菜葉ー食生活を彩ったカーシャ(首里だより⑤)」『科学朝日』第44号第5巻
- 「デイゴー燃え立つ赤は沖縄の心(首里だより⑥)」『科学朝日』第44号第6巻
- 「第二節 首里城から識名園まで」『沖縄県歴史の道調査報告書ー真珠道・末吉宮参詣道ー』沖縄県教育委員会

1985 年 (昭和 60) 年

- 「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅳ)」(知念勇と共著)『沖縄県立博物館紀要』第11号
- 『沖縄の薬草百科 誰にでもできる薬草の利用法』(大田文子と共著)新星図書出版
- 「5. 北谷から比謝橋へ ウ琉歌に見る道、第五章 首里城・弁ヶ嶽間の交通路2道筋と現状」
- 『沖縄県歴史の道調査報告書ー国頭・中頭方西海道(Ⅰ)・弁ヶ嶽参詣道ー』沖縄県教育委員会

1986 年 (昭和 61) 年

- 「一、那覇市の史跡総括」『那覇市歴史地図ー文化遺産悉皆調査報告書』那覇市教育委員会
- 「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅴ)」(知念勇と共著)『沖縄県立博物館紀要』第12号
- 「1. 読谷山の道 ア道筋と文物」『沖縄県歴史の道調査報告書ー国頭・中頭方面西海道(Ⅱ)ー』沖縄県教育委員会

1987 年 (昭和 62) 年

- 「1. 敷の道 エ、石俵大主について」『沖縄県歴史の道調査報告書Ⅳー島尻方諸海道・首里、那覇の道ー』沖縄県教育委員会

1988 年 (昭和 63) 年

- 「琉球文化の象徴ー首里城の復元に向けて ⑩起源」『沖縄タイムス』2月7日
- 「琉球文化の象徴ー首里城の復元に向けて ⑪高麗瓦」『沖縄タイムス』2月8日

1990 年 (平成 2) 年

- 「第一章 自然環境 第二節 植物」(仲田栄二と共著)『西原町史』第4巻 資料編3
- 「園原先生とその弟子たち」『脈』第39号

(1979年以前については、古稀記念多和田真淳選集刊行会編『古稀記念 多和田真淳選集』1980年所収の著作目録を参考に加筆修正した。なお文頭に※印がある著作は『古稀記念 多和田真淳選集』に所収されているものである。)

×E



平成 19 年度沖縄県立埋蔵文化財センター企画展
「多和田真淳先生生誕百年記念パネル展」

2007 年 5 月 22 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県西原町上原 193-7

TEL 098-835-8752

FAX 098-835-8754

ご案内

第二十六回文化講座

多和田真淳先生生誕百年記念シンポジウム

日 時： 2007 年 6 月 3 日（日） 13:30 ～ 17:00（13:00 開場）

場 所： 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

入 場： 無料 （沖縄考古学会にて資料頒布 500 円）

テーマ：「沖縄考古学の現状と課題」

【基調報告】 13:30 ～

「多和田編年の評価」 安里嗣淳

「貝塚時代後期の研究」宮城弘樹

「グスクの研究」當眞嗣一

「先島の考古学」金武正紀

【討 論】 16:00 ～ 17:00

開所時間： 午前9時～午後5時まで （入所は午後4時 30 分まで）

開催期間中の休所日： 毎週月曜日、国民の祝日（文化の日を除く）

交 通： ◇沖縄自動車道西原 IC より 車で7分

◇市外線バスターミナル発 那覇バス 97 番「琉大附属病院前」下車 徒歩1分

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7 TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754
<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>